

二十歳の誓い

私は将来、人工知能の研究に携わりたいと考えています。

私は小さい頃から京都の文化や神社仏閣に興味があり、中学生の時には京都のジュニア観光大使を務めさせていただきました。

そんな私が中学3年生の時、京都市青少年科学センターで開かれたプログラミング教室に参加したことがきっかけで情報工学に興味を持つようになりました。その講座は、パソコンで数値などを設定して、ロボットの車がコース通りに走るようにするというものでした。パソコンすらあまり触ったことがなかった私でしたが、数値によってロボットの動きがどのように変わるのか想像するのは楽しかったですし、何よりもロボットが自分の考えた通りに動いたり、逆にプログラミングが間違っていると予想外の動きをするのが非常に興味深かったです。

実際に情報工学の分野で人工知能の研究をしたいと思い始めたのは、大学受験を前に進路を考えた時でした。母が専業主婦だったせいか、私は将来自分が仕事をしながら家事と育児を両立している姿を全く想像する事が出来ませんでした。でも、せっかく学生時代に得た知識を活かさないまま家庭に入るのは嫌だし、夢を叶えるために家族を作ることを諦めるのも違う。それならどちらかを選ばなくて済むように、働く女性を助けてくれるような人工知能があれば良いのに、と思うようになったのが、私が情報工学分野に進むことを決意した理由でした。

現在情報工学分野で学ぶ学生は男性がほとんどですが、女性が自分たちの視点で研究を始めたら、待機児童や介護問題など様々な分野で女性を助ける人工知能が生まれてくるのではないかと思います。将来実際に家庭と仕事を両立する立場になった私が、この研究に加われたとしたら、それは大きな強みになるのではないかと考えています。

女性の目線から、人工知能の力を借りて、女性がより活躍しやすい環境を作りたい。このことを「二十歳の誓い」とさせていただきます。

令和3年1月11日 新成人代表 平居 珠実